



一般国道403号 道路拡幅整備に係る 環境影響評価方法書

概要説明



新潟市
Niigata City

本日の説明内容

1 一般国道403号道路拡幅整備の概要

2 環境影響評価方法書の概要

3 配慮書に対する意見及び事業者の見解

4 意見書について

1

一般国道 4 0 3 号

道路拡幅整備の概要

本事業区間の位置付け

目指す都市の姿

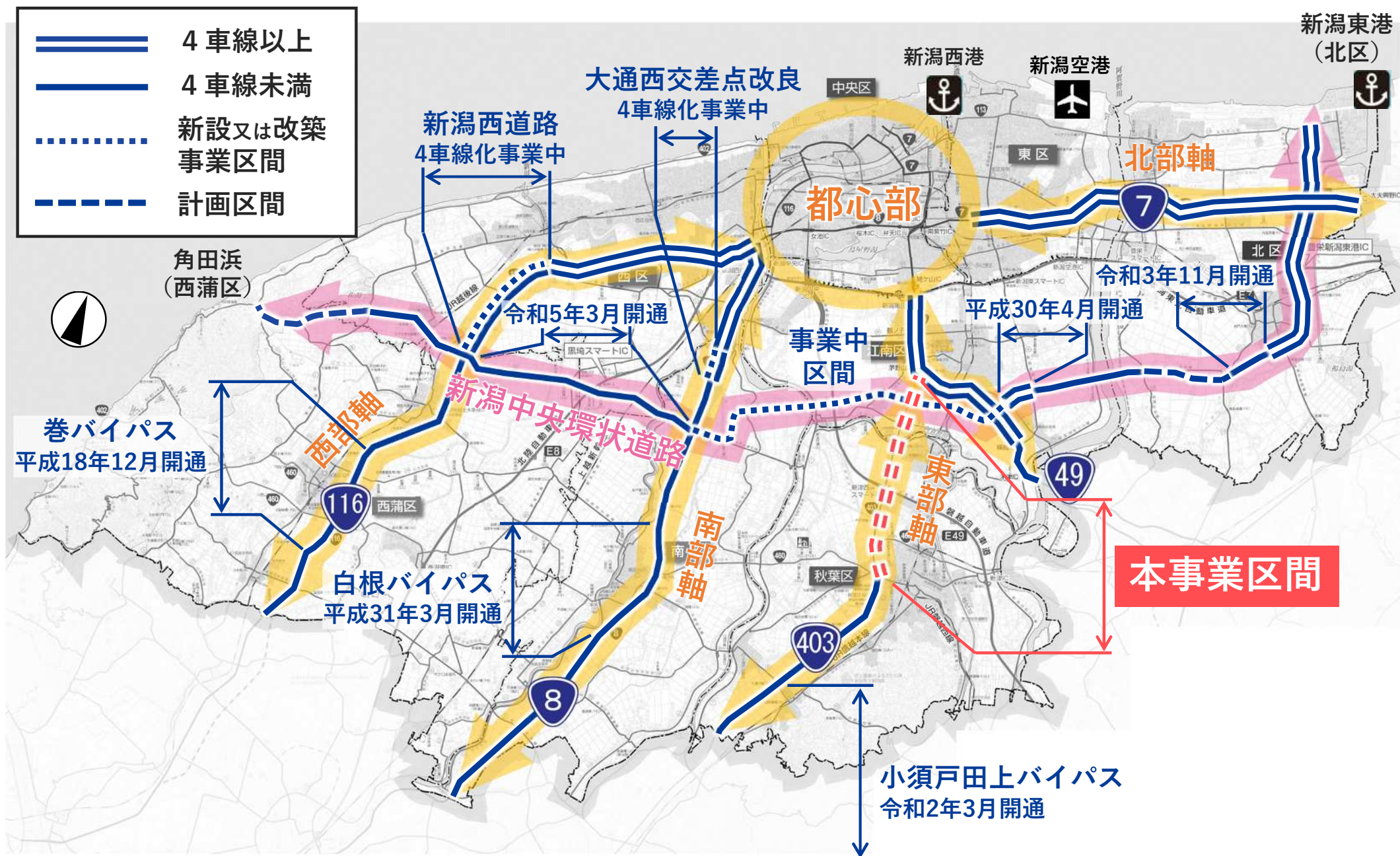
市街地と田園・自然の多様な魅力が
人をつなぐ多核連携型都市

本事業区間

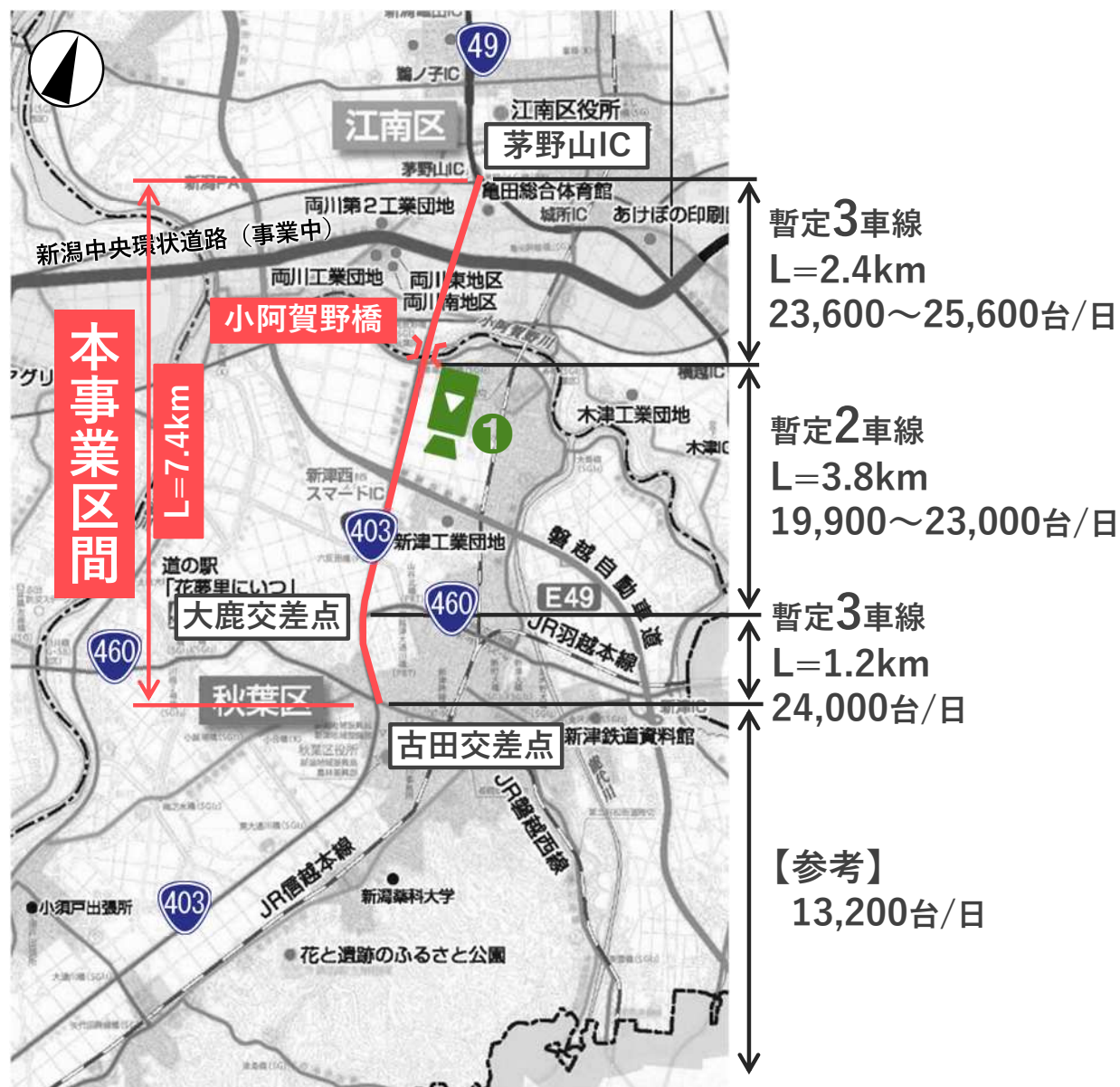
都心部と江南区・秋葉区を結ぶ
都心アクセス軸を形成



放射環状型道路ネットワークの現状



本事業区間の現状



道路構造令による車線数の規定

- 道路の種級区分は第3種第1級
- 第3種第1級の道路の車線数は4以上

道路の存する地域		地方部	都市部
高速自動車国道及び自動車専用道路又はその他の道路の別	高速自動車国道及び自動車専用道路	第1種	第2種
	その他の道路	第3種	第4種

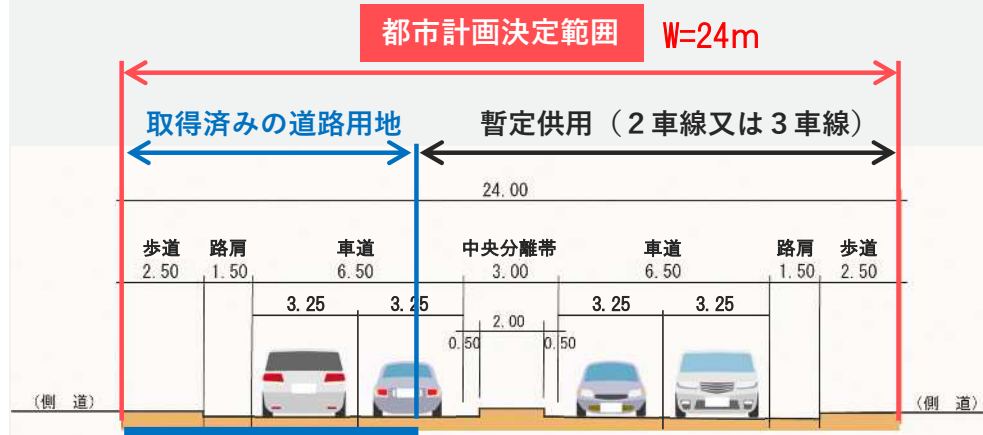
三 第3種の道路

道路の種類	計画交通量 (単位 1日に つき台) 道路の存する地 域の地形	20,000 以上	4,000 以上 20,000 未満	1,500 以上 4,000 未満	500 以上 1,500 未満	500 未満
		第1級	第2級	第3級	第4級	
一般国道	平地部	第1級	第2級	第3級	第4級	
	山地部	第2級	第3級	第4級		
都道府県道	平地部	第2級	第3級	第4級		
	山地部	第3級	第4級			

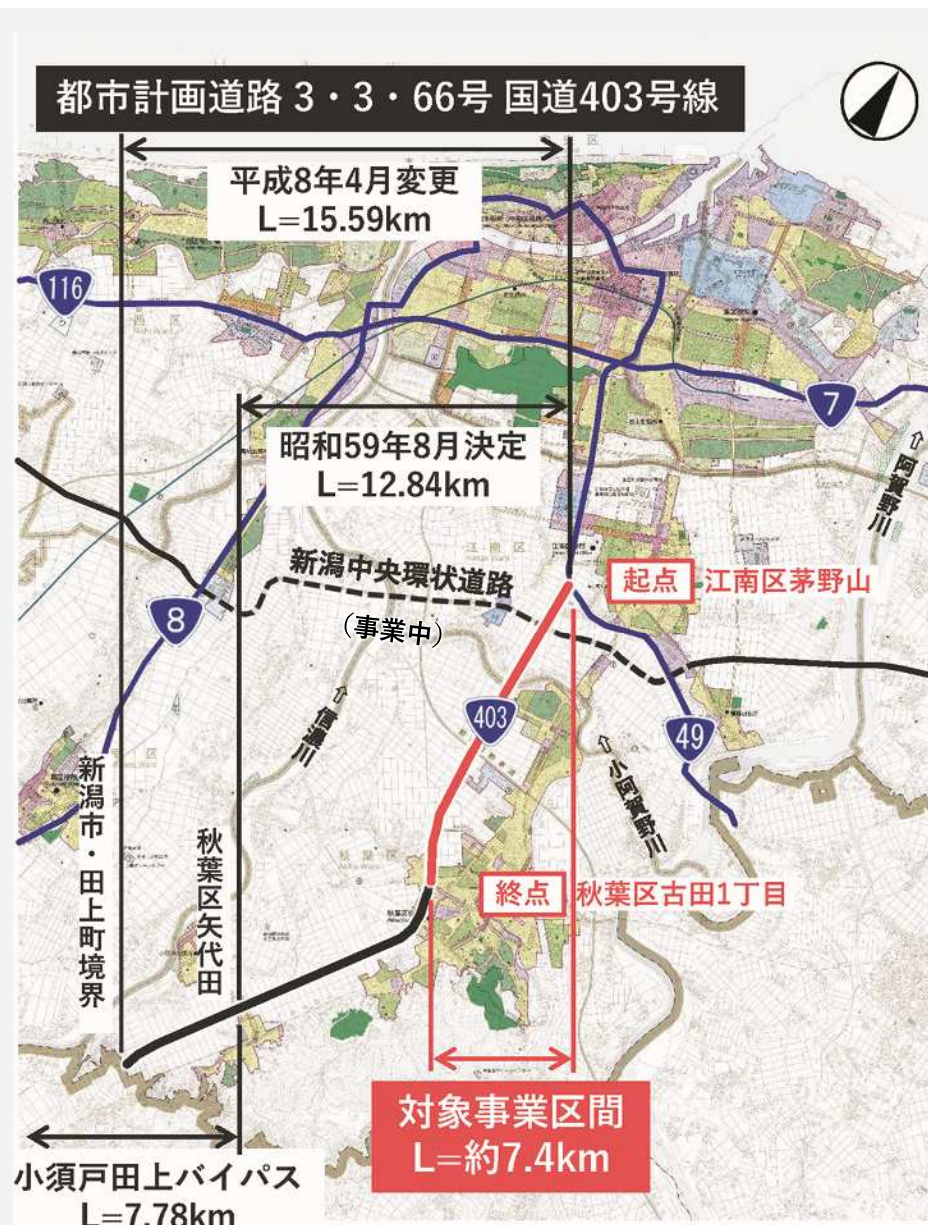
一般国道403号道路拡幅整備の概要

P.2-1~5

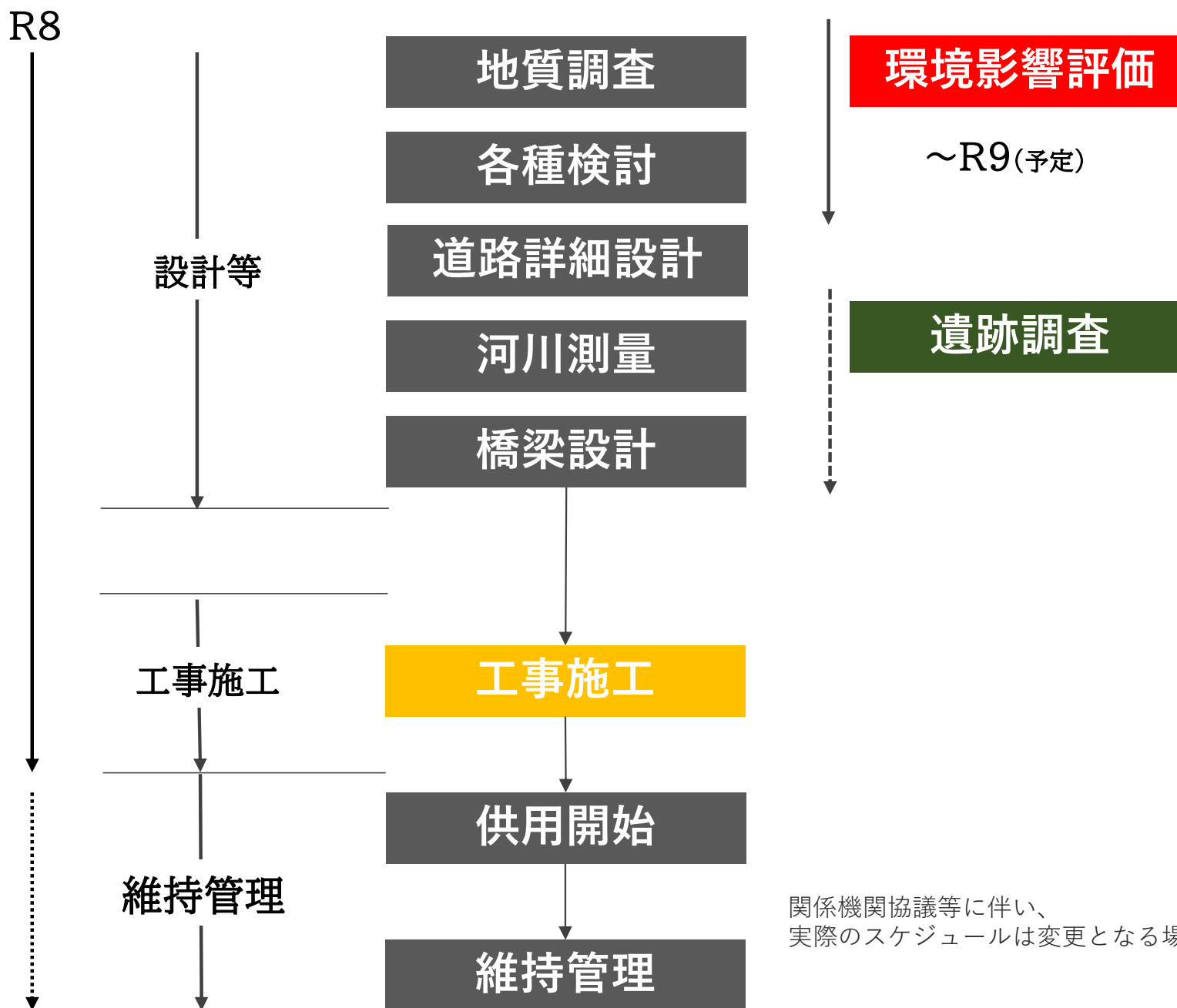
- 事業名 : 一般国道403号道路拡幅整備事業
- 事業の種類 : 道路の新設又は改築の事業
- 事業区間 : 起点:新潟市江南区茅野山
終点:新潟市秋葉区古田1丁目
- 事業延長 : 約7.4km
- 車線数 : 4車線
- 設計速度 : 60km/h



※平成8年都市計画決定時の標準断面



今後の進め方（予定）



関係機関協議等に伴い、
実際のスケジュールは変更となる場合があります

2

環境影響評価方法書の概要

- (1) 複数案の設定
- (2) 地域の概況
- (3) 環境影響評価項目の選定結果
- (4) 調査、予測及び評価の手法

ゼロ・オプションの検討

P.2-6~7

位置付け

- ・ 広域都市の健全なる発展を図る**都市計画道路**の一部区間
- ・ 都心部と江南区・秋葉区を結ぶ**都心アクセス軸**として**市民の日常的な移動を支える**
- ・ 沿線の工業団地等や新潟東港との物流軸を接続し、**円滑な物流・企業活動を支える**
- ・ 緊急輸送道路として**災害時における重要な道路ネットワークの一部**



現状

- ・ 暫定2車線又は3車線区間において、朝夕を中心に**慢性的な渋滞**が発生
- ・ 新潟中央環状道路が接続することによる交通量増加に伴う**更なる渋滞**の懸念
- ・ 車線の暫定運用で規制始端部と規制区間内の単路部が**ボトルネックとなり渋滞**が発生

ゼロ・オプションの検討

P.2-6～7

事業化の必要性

- 交通需要に対して道路の交通容量を確保
計画交通量（R22年） 17,600台/日～29,700台/日
現況交通量（R5年） 20,236台/日～25,674台/日
- 渋滞緩和による市民生活の利便性向上
- 工業団地や高速道路等へのアクセス性向上による物流機能の強化
- 災害に強い道路ネットワークの強化
- 4車線の都市計画道路として都市計画決定（S59.8・H8.4変更）
- コミュニティ協議会や商工会議所などから4車線化整備要望あり

ゼロ・オプションの検討

P.2-6~7

費用便益分析の結果

総費用(C) 160億円

事業費 : 156億円
維持管理費 : 3.9億円
更新費 : 0億円

総便益(B) 186億円

走行時間短縮便益 : 138億円
走行経費減少便益 : 36億円
交通事故減少便益 : 12億円

基準年 令和7年

費用便益比 1.2
(B/C)

⇒ ☒ 便益が費用を上回っている

本市の **まちづくりに重要な事業** であり、本事業の **実施は必要** であると判断

位置等に関する複数案の設定

P.2-6～7

位 置
規 模

施設配置や規模等の検討を行い、
地域の合意形成が図られた上で決定された都市計画道路

既に都市計画決定された道路法線を尊重

経済性
環境負荷

既に取得済み道路用地内で暫定2～3車線を4車線に拡幅整備

新たな道路用地の取得が不要
既存土地利用の改変面積が小さい

複数案の設定は合理的ではないため、**単一案**とする。

小阿賀野橋に関する検討状況

P.2-6～7

現況

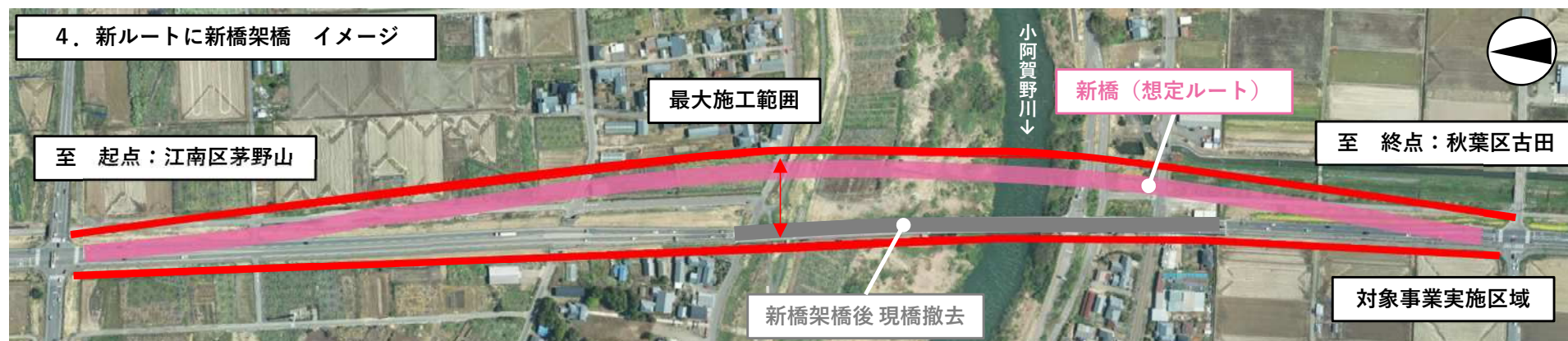
- 完成4車線分の橋台が整備済、現在は暫定2車線で供用
- 4車線化にあたり、既設橋台・現橋の健全度を判定し、ルート・工法を検討中

検討案

1. 既設橋台を活用し、拡幅分のみ架橋
2. 仮設迂回路を整備し、既設橋台を修繕 ➡ 現ルート上に新橋架橋
3. 仮設迂回路を整備し、新橋台を設置 ➡ 現ルート上に新橋架橋
4. 新ルート到新橋を架橋 ➡ 現橋撤去

評価方針

- 詳細ルート・施工範囲は準備書段階で提示
- 現時点では4案のうち、仮設う回路の幅も含め、「最大となり得る施工範囲」を想定し、環境影響評価項目の選定・評価を行う



自然的状況の概況（1）

P.3-2～81

大気質 図3.2.2 表3.2.3～12		二酸化窒素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質
	亀田	○	×	○	○
	新津	○	×	対象外	○
	※自動車排出ガスの測定は未実施				
騒音 図3.2.3 表3.2.13～15	一般地域騒音		自動車交通騒音	高速道路騒音	
	評価地点：5箇所 騒音レベル：昼間43～49dB 夜間38～41dB 環境基準：昼間55～60dB 夜間45～50dB		評価地点：78箇所 環境基準達成率：57%～100%	評価地点：1箇所 騒音レベル：昼間61dB 夜間59dB 環境基準：昼間65dB 夜間60dB	
振動 図3.2.3 表3.2.16	道路交通振動 評価地点：1箇所 振動レベル：昼間39dB、夜間35dB 要請限度：昼間65dB、夜間60dB（第一種区域）				
水質 図3.2.5 表3.2.18～21 表3.2.23	【小阿賀野川の水質】				
		基準適合		基準不適合	
	生活環境項目	pH、BOD、SS		DO	
	健康項目	カドミウムなど26項目		なし	
	水生生物保全項目	全亜鉛、ノニルフェノール、LAS		なし	
	その他	ダイオキシン類		なし	

自然的状況の概況 (2)

P.3-2～81

底 質 図3.2.5 表3.2.22	【小阿賀野川の底質】 基準適合：ダイオキシン類	
地形・地質 図3.2.11 表3.2.27	【重要な地形】 阿賀野川下流右岸の沖積面に残る旧流路	
動 物 図3.2.13 表3.2.28	重要な種	越冬地
	哺乳類：1種 鳥類：17種 両生類：4種 淡水魚類：5種 大型水生甲殻類：6種 昆虫類：5種 陸・淡水産貝類：13種	鳥屋野潟鳥獣保護区 〔コハクチョウ、オオハクチョウ等の 渡り鳥の飛来地〕
植 物 図3.2.14～15 表3.2.29	重要な種	巨樹・巨木林
	維管束植物種：69種	ケヤキ、イチヨウ、タブノキ等

自然的状況の概況 (3)

P.3-2～81

景観及び 人と自然との 触れ合いの 活動の場 図3.2.17～18 表3.2.30～31	眺望点	景観資源	人と自然との触れ合いの 活動の場
	亀田農村公園 大藏神社 諏訪神社 等	国道403号フラワーロード 小阿賀野川 等	亀田農村公園 阿賀野川フラワーライン 等
文化財 図3.2.19 表3.2.32～33	新潟県指定文化財2件 新潟市指定文化財19件 多数の埋蔵文化財包蔵地		
一般環境中の 放射性物質の 状況 図3.2.20 表3.2.34～35	空間放射線量率 (μ Sv/h)		土壌放射性物質 (Bq/kg)
	測定地点2箇所 空間放射線量率：0.073～0.088 通常の測定範囲：0.016～0.16		測定地点4箇所 ヨウ素131：不検出 セシウム134：不検出 セシウム137：不検出

社会的状況の概況

P.3-82～159

人 口 図3.3.1 表3.3.1	集落：茅野山集落、割野集落、古田集落等 人口集中地区（DID）が存在する。			
土地利用 図3.3.2 図3.3.3	土地利用計画における指定状況		都市計画区域の指定状況	
	市街化区域 市街化調整区域 農業地域 農用地区域		第一種住居地域 第一種中高層住居専用地域 準工業地域	
河川利用 図3.3.4	【小阿賀野川の河川利用】 農業用に利水されている。			
交 通 図3.3.5 表3.3.9	・一般県道沢海酒屋線等と交差 ・主要地方道新潟中央環状線と交差する計画			
公共施設 図3.3.6 表3.3.10～14	教育施設	福祉施設	医療施設	文化施設
	39施設	134施設	6施設	27施設
法令等による 指定等 図3.3.9～11 図3.3.13～17	・鳥獣保護区：鳥屋野潟鳥獣保護区、秋葉鳥獣保護区 ・環境基本法に基づく騒音、水質の類型指定 ・騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法に基づく規制区域			

2.環境影響評価方法書の概要
 (3) 環境影響評価項目の選定結果

P18

新潟市

環境影響評価項目の選定 (1)

P.6-2~7

●：今回選定 ■：参考項目以外の項目で今回選定 ×：選定しない

影響要因 環境要素	工事の実施				
	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存工作物の撤去等	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置
大気質（粉じん等）	●	●			
騒音・振動	●	●			
水質（水の濁り）			●	●	●
水質（水の溶存酸素量）			■	■	■
地形及び地質				×	×
動物	●	●	●	●	●
植物			●	●	●
生態系			●	●	●
廃棄物等			●		
温室効果ガス等	●	●			
文化財			●	●	●
放射線の量	×	×	×	×	×

3.環境影響評価方法書の概要 (3) 環境影響評価項目の選定結果

P19

新潟市

環境影響評価項目の選定（2）

P.6-2～7

●：今回選定 ■：参考項目以外の項目で今回選定 ×：選定しない

影響要因 環境要素	土地又は工作物の存在及び供用				
	道路（地表式又は掘割式）の存在	道路（嵩上式）の存在	消雪パイプの稼働	自動車の走行	休憩所の存在及び供用
大気質（NO ₂ 、SPM）				●	
騒音・振動				●	
水質（水の汚れ、水の濁り）					×
地形及び地質	×	×			
地盤		×	×		
日照障害		×			
動物	●	×			
植物	●	×			
生態系	●	×			
景観	●	×			×
人と自然との触れ合い	●	×			
温室効果ガス等				●	×
文化財	●	×			

調査、予測及び評価の手法

P.7-1

方針

- ・ 選定項目ごとに特性と本事業による環境影響の重大性を検討し、調査・予測・評価手法を選定。
- ・ 新潟市「技術指針」と国の「技術手法」を基本方針として適用

調査

- ・ 既往資料・現地踏査による環境の現況を把握
- ・ 必要に応じ、大気質・騒音・水質・動植物などの現地調査
- ・ 施工範囲に基づき**調査対象範囲（環境要素別）を設定**
- ・ 小阿賀野橋は、**最大施工範囲**を対象に調査

予測

- ・ 交通量の変化量により将来影響を推計
- ・ 類似事例も活用

評価

- ・ 基準値や目標値との比較
- ・ 重大な影響の有無を判断
- ・ 必要に応じ低減策を検討

調査、予測の手法（大気質、騒音、振動）

P.7-2～45

地点選定方針

- ・ 沿道の生活環境を代表する地点
(文化施設、福祉施設、集落等が分布)
- ・ 交通量の影響を受けやすい地点

凡 例

- 対象事業実施区域
- 大気質影響想定範囲（道路端から 150m）
- △ 一般環境大気測定局
- 本事業調査地点
- ▨ 人口集中（DID）地区



3.環境影響評価方法書の概要 (4) 調査、予測及び評価の手法

P22

新潟市

調査、予測の手法（大気質、騒音、振動）

P.7-2～45

環境要素	調査の手法	予測の手法等	影響要因
大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質)	<ul style="list-style-type: none"> 大気質の状況（二酸化窒素、窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の濃度）：大気の汚染に係る環境基準に規定される測定方法 	<ul style="list-style-type: none"> 拡散式を用いて、二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度を予測 	工事の実施 道路の供用
粉じん等	<ul style="list-style-type: none"> 気象の状況：地上気象観測指針による観測方法 調査頻度：四季ごとに連続一週間 	<ul style="list-style-type: none"> 事例の引用または解析により得られた経験式を用いて、季節別降下ばいじん量を予測 	工事の実施
騒音	<ul style="list-style-type: none"> 騒音の状況（騒音レベル）：騒音に係る環境基準に規定される方法等 調査頻度：平日の一日間 	<ul style="list-style-type: none"> 音の伝搬理論に基づく予測式を用いて、騒音レベルを予測 工事の実施については、現況の騒音レベルに工事影響を加味して予測 	工事の実施 道路の供用
振動	<ul style="list-style-type: none"> 振動の状況（振動レベル）：振動規制法施行規則に規定される測定方法等 調査頻度：平日の一日間 	<ul style="list-style-type: none"> 事例の引用又は解析等により得られた予測式を用いて、振動レベルを予測 工事の実施については、現況の振動レベルに工事影響を加味して予測 	工事の実施 道路の供用



調査、予測の手法（水質）

P.7-46～51

地点選定方針

- ・ 工事排水の放流先と想定される地点
- ・ 工事排水によって河川の水質が変化するおそれがある地点



凡 例

- 対象事業実施区域
- 本事業調査地点
- 主要河川・湖沼等

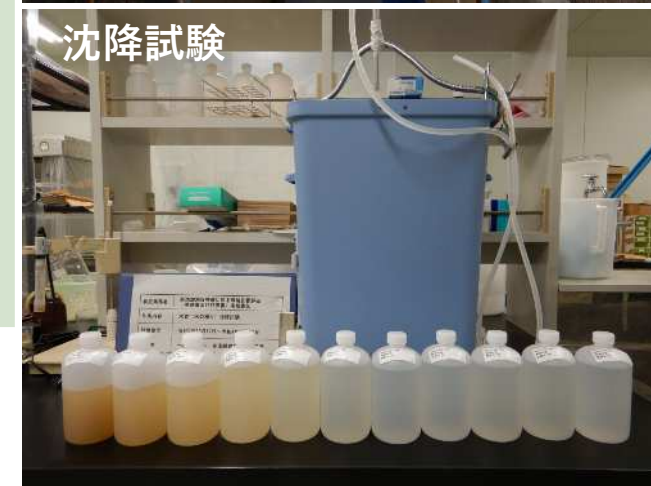
調査、予測の手法（水質）

P.7-46～51

環境要素	調査の手法	予測の手法等	影響要因
水質 （水の濁り、 水の溶存酸素量）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水象の状況（流量、浮遊物質量、溶存酸素量）：水質調査方法等に規定される測定方法、水質汚濁に係る環境基準に規定される測定方法 ・ 調査頻度：毎月一回、一年以上 ・ 土質の状況（粒度組成、沈降特性）：土の粒度試験方法に規定される方法、港湾工事における濁りの影響予測の手引きに準拠した方法 ・ 調査頻度：一回 	単純混合式により合流後の浮遊物質量、溶存酸素量を予測	工事の実施



水質調査



沈降試験

調査、予測の手法（動植物、生態系）

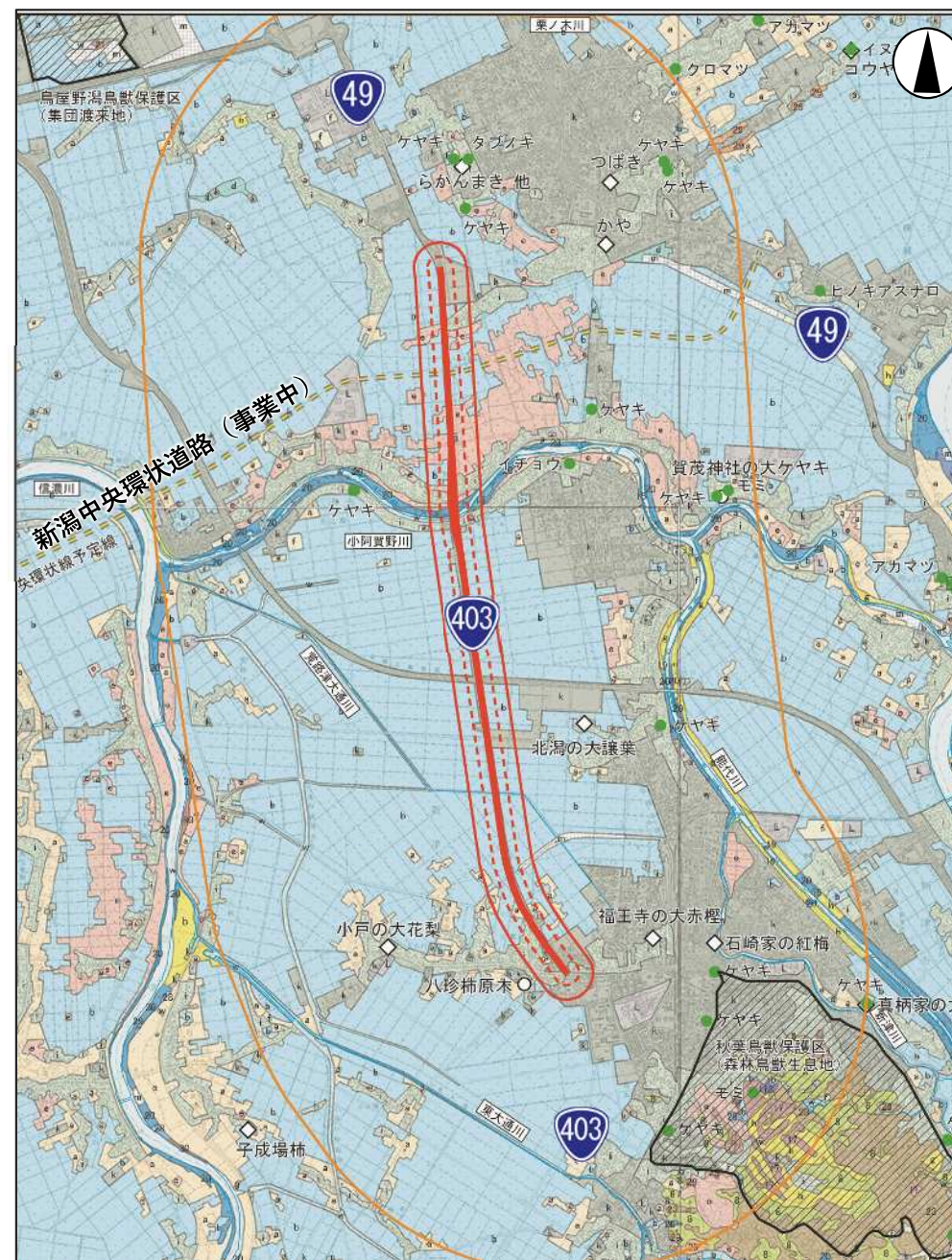
P.7-52～65

地点選定方針

- ・ 重要な種等・群集の生態等を踏まえ、調査地域においてそれらが生息・生育する可能性の高い場所

凡 例

- 対象事業実施区域
- 動物・生態系影響想定範囲（行動圏の広い動物に限る：道路端から3km程度）
- 動物・生態系影響想定範囲（道路端から250m程度）
- 植物影響想定範囲（道路端から100m程度）
- 鳥獣保護区
- 天然記念物（新潟県指定）
- 天然記念物（新潟市指定）
- 巨樹・巨木林
- 巨樹・巨木林（分布地域）



調査、予測の手法（動植物、生態系）

P.7-52～65

環境要素	調査の手法	予測の手法等	影響要因
動物 (重要な動物種・個体群及び注目すべき種)	<ul style="list-style-type: none"> 動物相の状況：個体や痕跡等の目視や鳴き声の聞き取り、個体の採取等による方法 重要な種等の状況、注目すべき生息地の分布並びに注目される理由である種の生息状況及び生息環境の状況：資料調査、個体や痕跡等の目視や鳴き声の聞き取り、個体の採取等による方法、微地形、水系等の種類及び分布の目視確認することによる方法 調査頻度：四季ごとに一回 	<ul style="list-style-type: none"> 重要な種等の生息地の消失・縮小する区間及びその程度を把握し、重要な種等の生育に及ぼす影響を科学的知見や類似事例を参考に予測 	工事の実施 道路の存在
植物 (重要な植物種・群落及びその生育地)	<ul style="list-style-type: none"> 植物相の状況：個体の目視、個体の採取による方法 重要な種及び群落の状況：資料調査、個体の目視、個体の採取、微地形、水系等を目視確認することによる方法 調査頻度：春夏秋に各一回 	<ul style="list-style-type: none"> 重要な種等の生育地の消失・縮小する区間及びその程度を把握し、重要な種等の生育に及ぼす影響を科学的知見や類似事例を参考に予測 	工事の実施 道路の存在
生態系 (地域を特徴づける生態系)	<ul style="list-style-type: none"> 動植物その他の自然環境に係る概況、地域を特徴づける生態系の注目種・群集の状況：「動物」「植物」に同じ 調査頻度：動物・植物に同じ 	<ul style="list-style-type: none"> 注目種・群集の生息・生育基盤の消失・縮小する区間等及びその程度を把握し、生態系等に及ぼす影響を科学的知見や類似事例を参考に予測 	工事の実施 道路の存在

鳥類調査



魚類調査



調査、予測の手法（景観、人と自然との触れ合いの活動の場）

P.7-67～74

地点選定方針

- ・ 事業の視認性が高い地点
- ・ 地域の代表的な眺望点を反映
- ・ 自然と触れ合う空間を考慮

(1) 亀田総合体育館



(2) 小阿賀野川河川敷



(3) 北上西第2公園



(4) 見晴らしの丘



凡 例

- 対象事業実施区域
- 景観の影響想定範囲（道路端から 3km 程度）
- 人と自然との触れ合いの活動の場の影響想定範囲（道路端から 500m 程度）
- 本事業調査地点



調査、予測の手法（景観、人と自然との触れ合いの活動の場）

P.7-67～74

環境要素	調査の手法	予測の手法等	影響要因
<p>景観 （主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な眺望点、景観資源の状況 ： 資料調査等 ・ 主要な眺望景観の状況 ： 写真撮影により視覚的に把握 ・ 調査頻度： 見どころとなる時期等を考慮し、代表的な時期を設定 （各四季に一回等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観と対象事業実施区域の重ね合わせにより改変の位置及びその程度を、フォトモンタージュ法等の視覚的な表現方法による変化の程度を予測 	<p>道路の存在</p>
<p>人と自然との触れ合いの活動の場 （主要な人と自然との触れ合いの活動の場）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 触れ合いの活動の場の概況、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況 ： 資料調査、写真撮影により視覚的に把握 ・ 調査頻度： 景観に同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源と対象事業実施区域の重ね合わせにより改変の位置及び程度、利用性の変化、快適性の変化等を予測 	<p>道路の存在</p>

調査、予測の手法（廃棄物等、温室効果ガス等、文化財）

P.7-75～80

環境要素	調査の手法	予測の手法等	影響要因
廃棄物 （建設工事に伴う副産物）	・ 既存資料調査を基本とする	・ 事業特性及び地域特性の情報を基に、廃棄物等の種類ごとの概略の発生及び処分の状況を予測	工事の実施
温室効果ガス等	・ 既存資料調査を基本とする	・ 建設機械の稼働、工事用車両の運行、自動車の走行に伴う温室効果ガスの発生量を予測	工事の実施 道路の存在
文化財	・ 既存資料調査及び現地調査（試掘調査）を基本とする。 ・ 埋蔵文化財包蔵地の存在が示唆された際は、記録保存を目的とした発掘調査を行う。 ・ 調査頻度：新潟市教育委員会との協議による	・ 対象事業の計画を基に、文化財及び埋蔵文化財包蔵地の消滅の有無及び改変の程度を予測する。	工事の実施

3

配慮書に対する意見及び 事業者の見解

新潟市長の意見及び意見に対する事業者の見解

総括的事項

新潟市長意見	事業者の見解
<ul style="list-style-type: none">・環境影響評価の基礎となる現況交通量及び将来の計画交通量を適切に把握し、方法書に反映すること。	<ul style="list-style-type: none">・最新の現況交通量及び将来交通量を適切に把握し、方法書に反映しました。
<ul style="list-style-type: none">・橋梁工事について複数の施工方法を想定し、環境影響範囲及び環境影響評価項目を適切に設定すること。	<ul style="list-style-type: none">・施工方法について調査、検討中であることから、橋梁工事による影響の最大範囲を想定し、環境影響評価項目を選定しました。

新潟市長の意見及び意見に対する事業者の見解

個別事項

項目	新潟市長意見	事業者の見解
ゼロ・オプション	・交通量変化等を踏まえ、客観的根拠に基づきゼロ・オプションを分かりやすく示すこと。	・交通量の整理や費用便益分析により、事業実施の必要性を整理しました。
大気質・騒音・振動	・住居・学校等が近接する区間について、適切な調査・予測・評価の手法を選定すること。	・大気質、騒音・振動を評価項目として選定し、今後の手続きにおいて、調査・予測・評価を行い、環境への影響の回避又は低減に努めます。
生態系	・田園や河川環境を踏まえ、生態系調査を十分に行い、環境保全措置を検討すること。	・詳細な計画段階で調査を行い、重要な生態系への影響に配慮します。

新潟市長の意見及び意見に対する事業者の見解

個別事項

項目	新潟市長意見	事業者の見解
景観	<ul style="list-style-type: none">・ 国道403号フラワーロードについて、地域住民及び関係機関と十分協議し、適切な環境保全措置を検討すること。	<ul style="list-style-type: none">・ 地域住民及び関係機関との協議、検討に向けた体制づくりを進めます。
温室効果ガス	<ul style="list-style-type: none">・ 交通量の変化を考慮し、適切な温室効果ガスの調査・予測・評価の手法を選定すること。	<ul style="list-style-type: none">・ 温室効果ガスを評価項目として選定し、今後の手続きにおいて、調査・予測・評価を行い、環境への影響の回避又は低減に努めます。
文化財	<ul style="list-style-type: none">・ 埋蔵文化財への影響について、関係機関と十分協議し、適切な措置を講じること。	<ul style="list-style-type: none">・ 文化財を評価項目として選定し、今後の手続き及び事業実施段階において、調査・予測・評価を行い、文化財への影響の回避又は低減に努めます。

4

意見書について



方法書の縦覧・方法書説明会の開催状況・意見書の提出状況

方法書の縦覧

縦覧期間	令和7年11月10日（月）～12月10日（水）【31日間】
縦覧場所	<p>① 新潟市役所本館（環境対策課） ※事業者（道路計画課）と同じフロアであるため環境対策課に窓口を統一</p> <p>② 江南区役所（建設課）</p> <p>③ 秋葉区役所（建設課）</p> <p>④ 中央図書館（ほんぽーと） ※ ①～③土曜、日曜、祝日を除く ④第1水曜、第2金曜日を除く ※ 市ホームページでも縦覧図書を公表</p>
縦覧時間	<p>①～③ 午前8時30分から午後5時30分</p> <p>④ 月曜から土曜 午前10時から午後8時 日曜・祝日 午前10時から午後5時</p>

方法書の縦覧・方法書説明会の開催状況・意見書の提出状況

方法書説明会

開催日時 開催場所	令和7年12月3日（水）19時～ 江南区役所302会議室	令和7年12月4日（木）19時～ 秋葉区役所601会議室
開催状況	参加人数 6名 環境保全の見地からの意見なし 	参加人数 5名 環境保全の見地からの意見なし 

意見書の提出

意見書の 提出期間	令和7年11月10日（月）～12月24日（月） 【45日間】
意見書数	提出なし